

# 佐賀市 47 歴史探訪

## なべしま なおしげ そうちじ 鍋島直茂と宗智寺

佐賀藩祖鍋島直茂は、「日峯」という名称で親しまれています。今回は、この直茂の臨終の様子について『直茂公譜』や『元茂公年譜』などの史料を元にお話ししましょう。

晩年、多布施の館に隠居していた直茂の耳に小さな疣がで、どうにか取り除いた後もその跡から汁が流れ出て止まらず、治療に手を尽くしたものよくなりませんでした。このため、直茂は、「天下に名を知られている自分が、皮膚が爛れて養生が叶わなかったと云われることを思うと、早く死を迎えたい」と、食事も薬もとろうとしなくなりました。そして元和4年(1618年)延命を望む周囲の願いも届かず、ついに亡くなりました。数え年で81歳の時でした。

直茂は死に臨み、この多布施の館に逆修(生前あらかじめ死後の仏事を修めること)の墓碑を立てるとともに、この地を寺地に取り立て自らを埋葬するように遺言しています。これは、「もし乱世になって、他国より佐賀へ敵が押し寄せてくる時、北への守りがとくに大切である。自分がここに埋まっていれば家中の者はこの地を敵の馬の蹄に懸けまいと奮戦し、城下に敵を入れることはなく持ち堪えられる」との賢慮があつてのことだと伝えられています。

なお、この多布施の館には、法名である「日峯宗智大居士」にちなんで「日峯山宗智寺」という寺が建立され、現在に至っています。

### 一口メモ

・直茂の墓碑には、「鍋嶋加賀守豊臣朝臣直茂」との銘が刻まれています。  
この墓碑は明治になって宗智寺(多布施四丁目)から鍋島家の菩提寺である高伝寺(本庄町大字本庄)に移され、陽泰院(直茂夫人)の墓石とならんで立てられています。



▲宗智寺



▲高伝寺にある鍋島直茂の墓碑  
(右隣の自然石は直茂夫人陽泰院の墓石)

